

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
城南中学校生徒としての誇りを持ち、たくましく生きる生徒の育成 ～「城南魂を持ち、主体的に学ぶ人」の育成をめざして～	①学習指導方法全般の改善・教職員の資質・能力の向上 ②コミュニティスクールの活性化 ③不登校生徒減少に向けた取組の充実

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

**3 目標・評価**

**①学習指導方法全般の改善及び教職員の資質・能力の向上**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて主体的に学び合う態度を培う教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて進んで学び合うことができていると答える生徒が年次ごとに増加する。(1年次:65%, 2年次:75%, 3年次85%以上。)	・1年次では、UDやバリアフリーをテーマに自主研修を行い、福祉体験学習で身近なこととしてとらえさせる。また、地域人材を活用した「働く人に学ぶ」で職業観を育む。 ・2年次では、福祉に加えて被災と復興をテーマに熊本自主研修を行い、たくましく生き抜く力を身につけさせる。また、地域と協働で行う「職場体験学習」では、マナー研修等を実施するなど、将来社会に出て実際に働くことを想定して学ばせる。さらに、高校生を招いて「先輩に学ぶ」を実施し、自分の夢や目標を具体的な進路へとつなげて行くよう促す。 ・3年次では、修学旅行を通して、戦争と平和や復興に向かう人間の崇高さなどを実感させ、未来に向けての夢や希望につなげる。また、「高校説明会」や「体験入学」などに向けて進路学習を充実させることで、誇りを持ち、たくましく生き抜こうとする意志を高め、自信をもって受験や進学に全力を尽くす態度を培う。
	●学力向上	・生徒の基礎学力定着	・『学び合い』の考え方を軸とした授業を実施し、一人も見捨てず、全員で課題を達成することの大切さを意識させ、学習集団としての高まりと学力の向上を目指す。 ・12月の県学習状況調査において、正答率60%以上、無回答ゼロの生徒を80%以上とする。	・全教科で『学び合い』やアクティブラーニングを中心とした授業を実施する。また、他教科や他クラスの良い面を取り入れ、活用するために合同授業を実施する。 ・生徒の実態分析をもとに構内研修会や教科部会を実施し、達成に向けて教職員の意識の共有化と実践を図る。
	○生徒指導の充実	・城南魂を身に付けた生徒の育成	・学校評価アンケートにおいて、「相手や場に応じた行動ができている」と回答する生徒の割合を90%以上とする。	・城南魂とは何かについて、生徒・教職員に共通理解を図り、全教育活動を通して時宜を得た適切な個別指導を行う。 ・問題対応だけでなく、開発的生徒指導の観点に立った指導を行う。

**②コミュニティスクールの活性化**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○情報発信	・HPの更新、学校たよりの発行など広報の充実	・学校行事や生徒の活動の様子、地域との連携の状況を積極的に情報発信し、学校に対する関心を高める。	・HPや学校・学年たよりで積極的に情報発信する。 ・学校たよりを公民館に掲示してもらい、学校の様子などを校区全体に知らせる。 ・地域ボランティアに参加した生徒の様子をHPで積極的に公開して、生徒の活動の様子を見てもらう。
	○開かれた学校づくり	・城南中学校運営協議会、城南豊夢学園運営協議会の活性化 ・家庭や地域との連携、小中連携の取組の深まり	・地域のニーズや要望をしっかりと踏まえ、地域と共生、協働をめざす。 ・フリー参観デーやPTA総会、その他学校行事への保護者の参加率を60%以上にする。	・CS協議内容を十分に検討し、豊夢学園のプロジェクトを推進し小中連携の充実を図る。 ・学校行事の日程や内容を不断に見直し、保護者の「見てみたい」「参加したい」という意識の高揚につなげる。 ・地域の方から地域行事の宣伝とボランティア募集の場を設定、地域の声を直接生徒に聞かせる。

**③不登校生徒減少に向けた取組の充実**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・自己肯定感を高め、自他を尊重できる生徒の育成	・安心して生活できる学級(土壌)づくりに取り組ませる(1年生) ・自他ともに良いところを認めあえる人間関係の構築に努めさせる(2年生) ・自分の課題を把握し、周囲と切磋琢磨しながら心身共に成長しようという意識をもたせる(3年生) ※各学年、8割以上の生徒が意識できるようにする。	・週1時間の授業の内容を、教科書を主体としたものだけでなく、エンカウンター的な内容も取り入れながら、生徒一人一人に課題について考えさせるよう実施する。 ・日常生活の中で起こる出来事をとらえて、学級に限らず、学年や全校で自他ともに成長できる集団について考えさせる。 ・人権週間やいじめ・いのちを考える日などを生徒に主体的に企画・運営させるように支援する。
	●いじめ問題への対応	・未然防止・早期発見・早期対応に向けた組織対応	・未然防止のための居場所づくり、絆づくりを行い、いじめゼロを目指す。 ・いじめを見逃さない体制づくりを行い、組織的な対応をする。 ・保護者や関係機関との連携を密にする。	・担任・副担任が連携して、朝の登校指導から下校指導まで、生徒に積極的に関わることで、生徒理解に努める。 ・情報をいち早くキャッチするために定期的な生活アンケートを実施する。 ・生徒指導部会を毎週開催し、生徒の情報交換に努める。 ・SC等、専門性をもつ外部人材と連携を図り、早期対応に努める。
	○不登校生徒への対応	・未然防止・早期発見・早期対応に向けた組織対応	・組織的な教育相談体制を確立し、学校全体で登校できない生徒を相談室へ相談室で学習している生徒を教室へと導いていく。 ・未然防止のために支持的風土づくりを充実させる。 ・保護者と連携を密にし、信頼関係を深める。	・定期的な教育相談アンケートやQUアンケート等を活用する。 ・教育相談室活用の実践・工夫をする。 ・専門性をもつ外部人材を活用した職員研修や生徒講話などを実施する。 ・SCやSSW、サポート相談員や関係機関、地域との連携を強める。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等の効率化の促進	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進する。 ・職員の時間外勤務について1か月当たりの平均を45時間未満とする。	・各分掌の業務内容をより効果的に行えるよう、適正化の観点から見直す。 ・職員が勤務時間と仕事内容にゴールを定め、見直しをもって取り組めるよう意識化を図る。 ・職員間で業務の在り方、見直しについて、アンケートを採ったり、話し合う機会を設けたりする。 ・職員の組織管理や時間管理、健康安全管理を始めとしたマネジメントを着実に実行する。
教育活動	●健康・体づくり	・部活動の奨励と推進 ・部活動の充実と部活動を通じた基本的生活習慣の確立	・生徒の自主的、自発的な活動により自己肯定感を高め、人間関係の構築を図る。 ・生徒の心身に疲労を蓄積し、スポーツ傷害の要因とならぬよう、計画的な練習と休養に努める。	・「佐賀市立中学校に係る部活動の方針」、「本校の部活動の在り方に関する方針」を年度当初に全職員で確認する。 ・担任や学年、顧問の校内連携、顧問と保護者の連携を深め、よりよい部活動の運営にあたる。
		・基本的な生活・食習慣の定着 ・健康・体づくりに向けての意識化	・生徒自ら健康安全について理解し、関心を深め、自他共に健康な生活を送ることができるようにする。	・性に関する教育では、学年別に、関係機関や地域連携をした講話の実施や発達段階に応じた取り組みを行う。保護者対象の講話の実施。 ・学級活動や家庭科の授業と連携しながら生徒が意識できるようにする。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目